

牧師所感： 自然災害に対する警告

— キリストの預言 —

今日私共人類が安心して生を営んでいる掛替のない地球が、日々目敏く変貌を遂げている。ところで日々目敏く変貌を遂げている地球が、生命ある被造物に、幸せをもたらすような出来事としてではなく、恐怖に怯える出来事となって訪れるのは何故であろう。その原因は？ 筆者は冷静になって考えて見ると、どうしてもその原因は人間にあるように思われる。被造物の中には、命を与えられた人間を始め、森羅万象、つまり生きとし生ける物が共存している。その中に在って人間だけが言葉を持っている。然るに動物の世界（陸、空、海）にも会話があるらしいが、その会話は、相手害するものではないらしい。だが弱肉強食の世界は、摂理でもあるらしい。

さて、私共人類がこの掛替のない世界をこよなく愛し、よりよい世界を造って行こうと努力して行くことに異存はない。だが人間の慾は際限なく、慾望のために地球は病んでいる。取返しのつかない状態に荒廃させている。つまり人間の慾望、罪である。

聖書は今日の出来事がやがて起きると、いにしえから今日に至るまで警告を発している。茲に新約聖書の預言を記し、人類の覚醒を祈るものである。

マタイ福音書 第24章 29節～34節。（口語訳）

しかし、その時に起る患難の後、たちまち日は暗くなり、月はその光を放つことをやめ、星は空から落ち、天体は揺り動かされるであろう。

そのとき、人の子のしるしが天に現れるであろう。またそのとき、地のすべての民族は嘆き、そして力と大いなる栄光とをもって、人の子が天の雲に乗って来るのを、人々は見るとであろう。また、彼は大きなラッパの音と共に御使（みつかい）たちをつかわして、天のはてからはてに至るまで、四方からその選民を呼び集めるであろう。

いちじくの木からこの譬（たとえ）を学びなさい。その枝が柔らかになり、葉が出るようになると、夏の近いことがわかる。そのように、すべてこれらのことを見たならば、人の子が戸口まで近づいていると知りなさい。

よく聞いておきなさい。これらの事が、ことごとく起るまでは、この時代は滅びることがない。

以上で見たように、世界の終末が近付いている。心して人間本来の姿に戻るようにならう。努力しようではないか。世界の平和を祈る！